

安全・信頼性検討における情報開示とスマートフォン時代 に対応した電気通信設備の安全・信頼性基準について

2012年6月18日

株式会社ジュピターテレコム

・電気通信設備の災害対策に関する情報の公表等について

(1) 停電対策等の災害対策に関する情報の公表について

事業者が災害対策を講じている旨を公表することは利用者における通信インフラに対する理解促進の上で有意義と考えるが、非常用電源の持続時間や応急復旧機材の配置場所等については設備/地域状況および事業者規模等によって変わるものであり、その詳細情報の公表においては事業者の判断に委ねられるべきものとする。

(2) 中継伝送路への切断等への対策の公表について

事業者における災害対策の一環として応急復旧機材を具備している旨や基本的な考え方を公表することは利用者における通信インフラに対する理解促進の上で有意義と考えるが、その台数や設置場所等については設備/地域状況および事業者規模等によって異なるため、単純な台数の公表は利用者には誤解を招く恐れがあるとする。

また、設置/配備場所の公表についてはセキュリティ上の懸念がある。

(3) ネットワークの設計容量に対する基本的な考え方、通信規制、重要通信の優先的扱いに係わる手法等の情報の公表について

- ・ネットワークの容量に関する“基本的な考え方”を公表することは可能。
- ・内部規程や数値データ等の詳細情報については事業者固有の運用ノウハウであり、投資計画等にも係わる情報のため、公表は控えたい。

(4) 障害や輻輳が発生した場合における発生状況等の情報の公表及び輻輳低減のための周知等について

・影響世帯数、影響サービス、経過時間等に応じて、

「障害情報」ページ

コミュニティチャンネル(自主放送)へのテロップ挿入

コールセンターでの音声アナウンス

J:COMショップ店頭での案内、企業HP、プレスリリース

等の情報伝達手段を用いて障害情報の提供・対応を行っている。

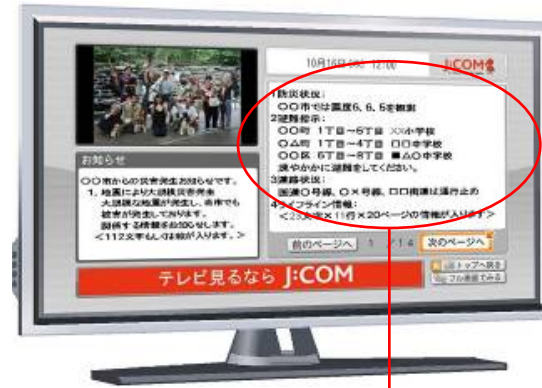
・行政機関とも連携し、行政側からの緊急/防災情報をコミュニティチャンネルのテロップやデータ放送およびインタラクTV(STB内蔵ブラウザ向けコンテンツ)、緊急地震速報端末等にて送出することも行っている(次頁参照)。

・内部規程に則って、利用者への告知対応および社内経営陣へのエスカレーションを行っている。

・定期的に災害訓練を実施し、不測の事態に備えている。



コミュニティチャンネルでのテロップ表示例



データ放送例



インタラクTV (STB内蔵ブラウザ向けコンテンツ) 表示例

行政からのお知らせ

(5) 応急復旧の優先順位について

影響の最小化を前提に復旧対応を行うが、設備/中継回線/利用者状況を鑑みて、臨機応変に判断・対応を行うようにしている。

(1) スマートフォン普及の現状と今後の予想

(2) アプリの制御信号増加への対策

当社としてスマートフォンは提供していないが、WiFi接続等でインターネットサービスを介し利用は伸びると考える。そのトラフィック量の増加に対しては一般PCを含む他のデータトラフィックを合わせてモニタリングを行い、適宜、設備/帯域増強を進めて行く。

(3) 冗長機能および復旧手順について

・新技術/設備導入時は試験環境にて単体/複合試験を実施し、また、異常操作/過負荷/冗長切替の確認試験も行っている。

・障害復旧においては、設備/サービス単位での対策マニュアル等を準備し、影響の最小化を前提として、復旧対応を行っている。

(4) 設備の設計・設定・配備について

- ・提供サービスのサービス要件/システム構成に合わせた設備仕様を策定し、その仕様に合致する設備/システムを導入している。
- ・負荷テストにおいては試験環境にて商用トラフィックパターンを模したテストを実施している。
- ・商用適用/導入時には一部エリアでのトライアルや深夜帯の作業等、問題発生時の影響の最小化を考慮して行っている。

(5) ソフトウェアの不具合の防止について

- ・自社開発ソフトウェアの場合、開発部門内でのリリースプロセスに加え、利用部門および検証/品質管理部門との間でリリース判定を行っている。
- ・発見された不具合は全て一元管理され、設計・試験仕様にフィードバックしている。
- ・他社開発のソフトウェアに対しても自社開発に準じた承認プロセスを経て導入している。

(6) 電源設備での障害発生の防止について

・導入前にベンダーでの出荷前単体試験などの検査内容を精査し、受け入れ時の擬似負荷試験等の動作検証を行っている。

また、設置作業時には作業手順マニュアル等を準備し、各作業間にチェック項目を挟み設置・作業を行っている。

・利用者への影響が大きいことが想定される作業については原則、深夜帯に行っている。

(7) 工事の際の事故防止について

・作業前に関係部門間で作業内容や手順および作業体制等の確認会議を開催し、作業に臨んでいる。

・作業や事故発生後にレビュー会議等を開催し、手順の見直しや再発防止策の検討・策定等を行っている。

・重要作業時には電話会議等を介して関係部門間で作業進捗を共有し、問題発生時に迅速な対応を取れるようにしている。